

## 「地域防災」の取組で東海大学とコラボ

秦野高等学校 校長 神戸秀巳

秦野高等学校は東海大学湘南校舎と非常に近い位置にあり、東海大学とは様々な連携事業を進めています。特に、平成 25 年度に東海大学が文部科学省の「地（知）の拠点整備事業」に採択されたこともあり、東海大学『To-Collabo プログラム』として、秦野市や地元大根自治会連合会、近隣の小中学校と協働して実施することが多くなっています。

今回は、東海大学情報理工学部情報科学科の内田理（おさむ）教授と内田研究室が開発した「災害情報システム」を地域防災に役立てたいと、秦野高等学校が協力を呼びかけました。今後取組を拡大して続けていきますが、まずは「初めの一步」といった感じです。



### 【東海大学（内田研究室が中心）が開発した災害情報システム】

災害が発生した時に、ツイッターを使って被災者自身が災害の状況を発信したり、行政などがその情報を収集し、必要な人に届けるといった「自助・共助」を促すシステム。ツイッターを活用した災害情報投稿システムはD I T S (Disaster Information Tweeting System)と呼ばれ、ユーザーがスマートフォンからツイートの文言を入力すると、自動的に「現在の位置情報」と「ハッシュタグ（目印）」が付けられます。

神奈川県が大学からの政策提言を募集し、共同で取り組む事業を決める「大学発・政策提案制度」で、D I T SをはじめとするICTを活用した東海大学の若年層への防災教育が最優秀提案に選ばれました。

平成 29 年 7 月中旬の午後、東海大学より、情報理工学部の内田理教授（博士）、工学部土木工学科の梶田佳孝教授（博士）、現代教養センターの田島祥講師（博士）と梶田研究室のゼミ生が来校し、ICT 教室にて、生徒会生徒 8 名と高校の防災担当者、私が参加して、1 回目の研修が行われました。

まずは、ICT 教室での説明を行った後、グループに分かれて学校周辺を歩き回り、実際に機器の操作を行いました。その後、また ICT 教室に戻ってきて、どのように結果が現れるのかを確認し、感想を述べ、次回の研修に活かす改善へとつなげました。



内田理教授チームと梶田佳孝教授チームの 2 グループに分かれ、別のコースを実際に歩き、危険になりそうな箇所をチェックし、ツイッターで文言を入力し、写真を撮りました。当日は、東海大学が用意した iPad（アイパッド）を使用しました。



東海大学の先生方、ゼミ生、秦野高等学校の生徒代表から意見や感想がだいぶ出て、有意義な研修会となりました。何としても地域防災に役立てなければと思っています。

教室に実際に映し出された画像はここでは載せていません。下の【参考】には、「DITS 災害報告」や「DIMS 災害地図」が載っていますので、イメージがつかめます。

【参考】 毎日新聞 東海大学を知る「web マガジン」東海イズム（2017.5.1 掲出）  
防災に ICT 活用 「自助共助」の仕組み構築へ  
[http://mainichi.jp/sp/tokaism/opinion/con70\\_1.html](http://mainichi.jp/sp/tokaism/opinion/con70_1.html)